



平成31年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年12月7日

上場会社名 株式会社ストリーム 上場取引所 東
 コード番号 3071 URL https://www.stream-jp.com
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)松井 敏
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員管理本部長 (氏名)高瀬 宏平 (TEL) 03(6858)8189
 四半期報告書提出予定日 平成30年12月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年1月期第3四半期の連結業績(平成30年2月1日~平成30年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年1月期第3四半期	16,438	5.7	△91	—	△94	—	△132	—
30年1月期第3四半期	15,548	△2.2	26	△75.3	20	△77.9	26	△51.4

(注) 包括利益 31年1月期第3四半期 △128百万円(—%) 30年1月期第3四半期 23百万円(△60.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年1月期第3四半期	△4 86	— —
30年1月期第3四半期	0 98	— —

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
31年1月期第3四半期	4,966	1,707	1,707	1,707	33.1
30年1月期	5,260	1,835	1,835	1,835	33.8

(参考) 自己資本 31年1月期第3四半期 1,645百万円 30年1月期 1,778百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年1月期	— —	0 00	— —	0 00	0 00
31年1月期	— —	0 00	— —	— —	— —
31年1月期(予想)	— —	— —	— —	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年1月期の連結業績予想(平成30年2月1日~平成31年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,756	1.5	22	△76.8	13	△77.5	△58	—	△2 15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名)一、除外 1社(社名)株式会社イーベスト

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

31年1月期3Q	28,525,000株	30年1月期	28,525,000株
31年1月期3Q	1,236,500株	30年1月期	1,236,500株
31年1月期3Q	27,288,500株	30年1月期3Q	27,288,500株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成30年2月～平成30年10月)におけるわが国経済は、緩やかに景気が回復しており、企業収益及び雇用情勢は改善がみられ、個人消費も持ち直してきていますが、海外での経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等により、国内景気の先行きは不透明な状況が続いています。

当社グループは、お客様のライフスタイル作りのサポートとして「より良いもの」「より安く」「より適確に」「より迅速に」新しい価値観の提案・提供を通して社会の発展に貢献することを経営の基本方針に、既成概念にとらわれることなくチャレンジを続け、インターネット通販事業を中心に事業活動を行っております。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

① インターネット通販事業

当第3四半期連結累計期間における国内の家電小売業界は、猛暑の影響でエアコン等の季節商品をはじめテレビ、冷蔵庫、洗濯機等は拡大基調が続く一方で、デジタルカメラ、パソコン等は、やや低調であったものの、総じて堅調に推移しました。

このような状況の中、当社が出店する「楽天市場」「Yahoo!ショッピング」「Amazonマーケットプレイス」等の外部サイトの売上は、引き続きOA周辺機器・国産時計等を中心に堅調に推移しました。又、液晶テレビやタブレット等のOA機器についても前年同四半期比で伸長しており、今後も売れ筋商品の在庫施策等により更なる売上確保に努めてまいります。

サイト別では、「Amazonマーケットプレイス」について、平成29年11月に導入した在庫保管・商品配送代行サービス「フルフィルメント by Amazon (FBA)」により業務効率の改善を図り、取扱いアイテムも広げて売上は好調に推移しています。又、第2四半期末から当第3四半期にかけてKDDIコマースフォワード株式会社とKDDI株式会社が共同運営するショッピングモール「Wowma! (ワウマ)」内に当社が運営するインターネット通販サイト「ECカレント」「イーベスト」及び「特価COM」を新規出店し、コストを意識しつつオリジナルサイト以外の販売チャネルの強化を図っていきます。

一方、オリジナルサイト「ECカレント」では、WEB接客ツールのチャット機能を平成30年9月より導入しました。この機能により、お客様が希望する配送場所に応じた最短納期のスムーズな案内等が可能となり、設置サービスが必要な冷蔵庫、テレビ等の大型家電の在庫施策と連動させたプロモーションを行っております。それに伴いサイトの回遊性を高め、会員登録・商品購入等のコンバージョン率(CVR)の向上を図ります。

しかしながら、売上高については前年同四半期比増収ではあったものの、利益面では第2四半期に引き続き、外部サイトの売上高増加に伴う広告宣伝費、荷造発送費の増加、又、競合他社との価格競争に伴う更なる対策費用の発生や追加の滞留在庫処分に伴う粗利益の低下により、営業利益では前年同四半期を大幅に下回りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は14,309百万円(前年同四半期比9.0%増)、営業損失123百万円(前年同四半期は87百万円の営業利益)となりました。

インターネット通販事業の売上・来店客数推移

	売上高(百万円)	営業損益(百万円)	来客数(千人)	受注件数(千件)	会員数(千人)
当第3四半期連結累計期間	14,309	△123	11,730	1,061	11,157
前第3四半期連結累計期間	13,129	87	11,054	755	10,090

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

(百万円)

	家電	パソコン	周辺/デジカメ	その他	合計
当第3四半期連結累計期間	6,912	1,262	4,920	1,213	14,309
前第3四半期連結累計期間	6,658	1,242	3,817	1,409	13,129

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

※会員数は顧客情報を登録頂いている顧客数の累計です。

② ビューティー&ヘルスケア事業

株式会社エクスワンにおいて展開される、ビューティー&ヘルスケア事業では、新商品として、平成30年10月に、ヒト幹細胞培養液配合のベースメイクシリーズ「X L U X E S プロケアビヨンド コンシーラー」、「フィネティア リップスティックMTB」を発売し、売上は堅調に推移しています。又、平成30年9月より、新ビジネスプラン「X - t w o b i r d (エクストワード)」をスタートしました。会員ビジネスの更なる発展を目指し、新時代のビジネスコミュニケーションスタイルに適したオートシップをベースとするバイナリーシステムを導入し、立ち上がりは順調に推移しています。

売上高に関しましては、訪日観光客向け免税店販売について、台風21号や北海道胆振東部地震の影響で伸びが少なかった一方で、会員向け新ビジネスプランが好調だったこともあり、ほぼ前年同四半期並みとなりました。利益面に関しては、免税店販売に関わるコストの見直しや前連結会計年度に投入した会社創業30周年関連プロモーション効果の継続等により、販売管理費が想定より抑えられた結果、当初計画より大幅に上回りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,646百万円（前年同四半期比3.2%減）、営業利益66百万円（前年同四半期は43百万円の営業損失）となりました。

ビューティー&ヘルスケア事業の売上推移

(百万円)

	パーソナルケア	ヘルスケア	その他	合計
当第3四半期連結累計期間	1,336	231	78	1,646
前第3四半期連結累計期間	1,362	254	84	1,700

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

③ その他事業（「各種販売支援事業」、「オンライン・ゲーム事業」）

「各種販売支援事業」では、国内免税店25店舗において訪日観光客向け販売や株式会社エクスワン商品の会員向け販売のシステム・物流支援等を行っています。

訪日観光客の動向に関しまして、平成30年1月～6月期における訪日外客数の前年比は2桁台で推移していたものの、平成30年7月～9月期における訪日外客数は、台風21号による関西国際空港の閉鎖、北海道胆振東部地震に伴う新千歳空港の閉鎖等により、航空便の欠航やクルーズ船の寄港中止によるツアーのキャンセルが相次いで発生した影響が訪日外客数にあらわれる結果となり、7月、8月は1桁台で推移し、10月には回復の兆しがみられたものの、9月に至っては5年8か月ぶりに訪日外客数が前年同月を下回る結果となりました。

「オンライン・ゲーム事業」では、共同企画・運営を行っているタイトルが、安定的な売上を維持しています。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は693百万円（前年同四半期比38.6%減）、営業利益170百万円（前年同四半期比7.7%減）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は16,438百万円（前年同四半期比5.7%増）、営業損失91百万円（前年同四半期は26百万円の営業利益）、経常損失94百万円（前年同四半期は20百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失132百万円（前年同四半期は26百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ293百万円減少し、4,966百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金56百万円増加、現金及び預金119百万円減少、商品224百万円減少によるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ165百万円減少し、3,259百万円となりました。これは主に、買掛金216百万円増加、未払金42百万円増加、短期借入金300百万円減少、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)116百万円減少によるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ128百万円減少し、1,707百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失132百万円の計上によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ119百万円減少し、500百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において営業活動の結果増加した資金は、399百万円(前年同四半期は515百万円増加)となりました。収入の主な内訳は、非資金項目である減価償却費142百万円、たな卸資産の減少額218百万円、仕入債務の増加額216百万円であり、支出の主な内訳は、税金等調整前四半期純損失94百万円、売上債権の増加額56百万円、法人税等の支払額49百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、100百万円(前年同四半期は111百万円使用)となりました。収入の主な内訳は、差入保証金の回収による収入31百万円であり、支出の主な内訳は、無形固定資産の取得による支出91百万円、差入保証金の差入による支出39百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、419百万円(前年同四半期は97百万円使用)となりました。支出の主な内訳は、短期借入金の純減額300百万円、長期借入金の返済による支出116百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年1月期の業績予想に関しましては、平成30年9月6日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合には速やかに開示する予定であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	621,373	502,326
受取手形及び売掛金	1,159,748	1,216,486
商品	2,434,469	2,210,024
その他	106,139	133,816
流動資産合計	4,321,731	4,062,653
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	131,501	126,257
車両運搬具(純額)	9,283	5,891
工具、器具及び備品(純額)	47,666	42,985
土地	2,003	2,003
有形固定資産合計	190,455	177,137
無形固定資産		
ソフトウェア	367,811	351,971
その他	27,596	15,362
無形固定資産合計	395,408	367,333
投資その他の資産		
投資有価証券	12,648	12,535
出資金	270	270
差入保証金	333,969	338,523
その他	21,919	24,153
貸倒引当金	△15,876	△15,876
投資その他の資産合計	352,930	359,605
固定資産合計	938,794	904,077
資産合計	5,260,525	4,966,731

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,518,146	1,734,965
短期借入金	1,000,000	700,000
1年内返済予定の長期借入金	138,800	88,800
未払金	319,814	362,078
未払法人税等	40,028	18,468
賞与引当金	5,466	14,166
ポイント引当金	18,028	10,423
その他	139,436	146,316
流動負債合計	3,179,720	3,075,217
固定負債		
長期借入金	144,420	77,820
繰延税金負債	2,626	1,269
その他	97,857	105,210
固定負債合計	244,903	184,299
負債合計	3,424,623	3,259,517
純資産の部		
株主資本		
資本金	924,429	924,429
資本剰余金	876,888	876,888
利益剰余金	129,570	△3,018
自己株式	△152,609	△152,609
株主資本合計	1,778,278	1,645,690
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	269	155
その他の包括利益累計額合計	269	155
非支配株主持分	57,353	61,368
純資産合計	1,835,902	1,707,214
負債純資産合計	5,260,525	4,966,731

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年10月31日)
売上高	15,548,872	16,438,574
売上原価	11,980,618	12,730,341
売上総利益	3,568,253	3,708,232
販売費及び一般管理費	3,541,557	3,799,300
営業利益又は営業損失(△)	26,695	△91,067
営業外収益		
受取利息	144	51
受取配当金	33	17
受取手数料	447	287
為替差益	753	5,925
その他	499	1,126
営業外収益合計	1,878	7,408
営業外費用		
支払利息	4,986	8,371
支払手数料	3,500	1,771
その他	-	945
営業外費用合計	8,486	11,087
経常利益又は経常損失(△)	20,087	△94,746
特別利益		
固定資産売却益	84	400
新株予約権戻入益	12,017	-
特別利益合計	12,102	400
特別損失		
減損損失	6,490	-
特別損失合計	6,490	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	25,699	△94,346
法人税等	2,050	34,227
四半期純利益又は四半期純損失(△)	23,649	△128,574
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,060	4,014
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	26,709	△132,588

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年10月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	23,649	△128,574
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	153	△113
その他の包括利益合計	153	△113
四半期包括利益	23,803	△128,687
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	26,863	△132,702
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,060	4,014

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	25,699	△94,346
減価償却費	174,772	142,947
減損損失	6,490	-
賞与引当金の増減額(△は減少)	8,200	8,700
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△4,356	△7,604
受取利息及び受取配当金	△177	△68
支払利息	4,986	8,371
新株予約権戻入益	△12,017	-
為替差損益(△は益)	△201	143
固定資産除売却損益(△は益)	△84	△400
売上債権の増減額(△は増加)	△22,701	△56,737
たな卸資産の増減額(△は増加)	△80,295	218,536
仕入債務の増減額(△は減少)	364,677	216,818
その他	92,888	20,213
小計	557,878	456,574
利息及び配当金の受取額	52	721
利息の支払額	△4,943	△8,082
法人税等の支払額	△37,576	△49,613
営業活動によるキャッシュ・フロー	515,412	399,600
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△450	△450
有形固定資産の取得による支出	△6,998	△1,686
有形固定資産の売却による収入	550	1,694
無形固定資産の取得による支出	△103,905	△91,185
差入保証金の差入による支出	△1,079	△39,541
差入保証金の回収による収入	618	31,107
その他	218	48
投資活動によるキャッシュ・フロー	△111,045	△100,013
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△150,000	△300,000
長期借入れによる収入	300,000	-
長期借入金の返済による支出	△245,635	△116,600
その他	△1,791	△2,484
財務活動によるキャッシュ・フロー	△97,426	△419,084
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	306,941	△119,496
現金及び現金同等物の期首残高	176,454	619,523
現金及び現金同等物の四半期末残高	483,395	500,026

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年2月1日至平成29年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	インターネット通販事業	ビューティー&ヘルスケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,128,684	1,695,083	725,103	15,548,872	—	15,548,872
セグメント間の内部売上高又は振替高	993	5,788	404,275	411,058	△411,058	—
計	13,129,678	1,700,872	1,129,379	15,959,930	△411,058	15,548,872
セグメント利益又は損失(△)	87,741	△43,305	185,203	229,639	△202,943	26,695

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△202,943千円は、セグメント間取引消去341千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△203,285千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. その他事業は、各種販売支援事業及びオンライン・ゲーム事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

その他事業に含めて記載しているオンライン・ゲーム事業において、一部のサービスの終了に伴い、今後使用見込みのない資産全額を減損処理したことにより、6,490千円を減損損失として特別損失に計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年2月1日至平成30年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	インターネット通販事業	ビューティー&ヘルスケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,309,086	1,637,923	491,564	16,438,574	—	16,438,574
セグメント間の内部売上高又は振替高	293	8,975	201,569	210,838	△210,838	—
計	14,309,380	1,646,898	693,133	16,649,412	△210,838	16,438,574
セグメント利益又は損失(△)	△123,067	66,881	170,866	114,680	△205,747	△91,067

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△205,747千円は、セグメント間取引消去△277千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△205,469千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と一致しております。

3. その他事業は、各種販売支援事業及びオンライン・ゲーム事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。